

令和6年度 江戸川区立東葛西小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	○やさしい子（思いやりの心を大切に生活する子を育てる） ○やりぬく子（責任をもって最後まで取り組む子を育てる） ○げんきな子（健康安全に努め明るく行動する子を育てる）		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	子供の笑顔が輝きあふれる楽しい学校。教職員が教える喜びに満ちた学校。地域から信頼され愛される学校。 確かな学力、豊かな人間性、健やかな身体。 児童理解、授業改善、生活指導の充実を図り、自己研鑽をしながら学校組織の一員としてよりよく協働する教師。
前年度までの本校の現状	成果	いじめや不登校の未然防止のために、日頃より教員の報告・連絡・相談を密に行うようにしてきた。また、全教員によるエンカレッジの対応により、子供たちが安心して学校生活を送ることができるよう改善できたことは成果であった。学習活動についても、全国学力・学習状況調査において、全国平均を上回ることができた。	課題	基礎・基本の学習の定着について、個人の差が大きい。かけ算検定や漢字検定は少しずつ効果を出しているが、児童一人一人の苦手分野の克服には及ばない部分があった。全体的に読書量が少なく、算数の文章題や国語の教材を読み取る力や文章を考える力などに課題が残る。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A~D)		「中間」学校関係者評価(A~D)		「年度末」自己（学校）評価(A~D)		「年度末」学校関係者評価(A~D)		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○学力の向上	・年3回の「校内学力調査」の実施から児童の実態を把握、朝学習や放課後学習等で基礎・基本的な学習を身に付けさせる。	・学力定着度で80%達成の児童が各学級で80%を達成する。 ・家庭学習の定着で90%を目指す。	C	B	C	・校内学力調査の1回目では、平均正答率が国語で68%、算数で69%であったが、2回目は国語73%、算数68%となった。全体的に2回目が上がっているが、一部下がった学年もあるので、引き続き基礎・基本的な学習の定着を図る。	B	・全体に基礎・基本である漢字や九九の定着に期待をする。また、復習などを行うことで、基礎学力の定着を図ってほしい。	B	・3年生から6年生が江戸川区学力調査を11月に行った。各学年概ね全国平均の正答率であるが、学年によって教科の得手不得手が出ている。 ・学級による基礎学力の定着に差が出ている。	B	・学力向上の取組を様々行っているようで、基礎学力が徐々に上がってきていることは良い。 ・学級によって差があるようなので、全体に足並みをそろえてできると尚良いと考えるので、次年度も引き続き取組をしてほしい。	・基礎学力を更に向上させる取組を行っている。学級差が見られる部分もあるため、学年全体で声を掛け合い、学校全体に向上させていく。
	○東葛西スタンダードの定着	・「東葛西スタンダード」を設定し、どの学級も同じように指導するようにする。	・「東葛西スタンダード」の定着を80%とする。	A	A	A	・どの学級でも同じように指導するように、「東葛西スタンダード」を設定している。	A	・どの学級でも同じように指導できることは児童の安心につながるため、引き続き継続してほしい。	A	・「東葛西スタンダード」の定着を図ることができた。今後も引き続き行っていく。	A	・少人数、専科の学習でも共通で行っているため、児童の安心につながる。次年度も継続してほしい。	・次年度も引き続き「東葛西スタンダード」の定着を図る。
	○読書科の更なる充実	・読書カードに読書記録を書き、各学年の目標を達成した児童に認定証を渡す。	・学年末に70%を達成する。	C	C	C	・読書の達成率が低かった。今後、読書推進を図る活動を行い、達成率の向上を図る。	C	・読書の達成率が低いようなので、児童の興味・関心が向上する取組を期待する。	C	・読書の達成率が年間を通して悪かった。読書推進のために、図書委員会を中心に活動したが、学級により差が生じた。	C	・児童の興味・関心が向上する取組を行っているが、学年目標の達成率が低い。向上することを期待する。	・読書月間などの取組や学年目標等を見直して読書推進を行っていく。
体力の向上	○運動意欲や基礎体力の向上	・校内研究として、自らすすんで運動に取り組む児童を目指して各領域で様々な取組を行っていく。	・年間6回の研究授業を行う。	A	A	A	・全6回中2回を終了。自らすすんで運動に取り組む児童を目指し、取組を行っている。引き続き、2月18日まで行う。	A	・体育が楽しいと思える授業を期待する。	A	・年間6回の研究授業を通して、自らすすんで運動に取り組む児童を目指してきた。2月18日に研究発表を行った。	A	・研究授業を繰り返すことで、今年度の研究から学んだことを生かし、新たな取組を行っていく。	・今年度の研究から学んだことを生かし、新たな取組を行っていく。
	○「なわとびチャレンジ」	・縄跳びカードを作成しての技能の習得とマラソン跳びによる持久力の向上を図る。	・年3回の縄跳びチャレンジを実践する。	B	A	B	・年3回中1回が終了した。縄跳びカードを作成し、5月に1回目を実施した。	B	・体力向上のため、今後も取組を継続してほしい。	A	・年3回の縄跳びチャレンジに多くの児童が具体的な目標をもって取り組むことができた。	A	・児童が挑戦する場を設けて目標達成をする喜びを感じることは大切である。今後も続けてほしい。	・体力向上のため、次年度も行っていく。
	○「東小プレイタイム」の実施	・的当て・鉄棒・一輪車などを使った運動を設定し、休み時間などに取組めるようにする。	・遊びを全部行った児童が80%。	C	B	C	・マッシュカードを用意し、全種目達成を目指す。まだ達成率が低い。引き続き、取組を行っていく。	C	・外遊びのための取組として、継続的に行い、児童の体力向上を図ってほしい。	B	・マッシュカードの取組を積極的に行い、全校的に休み時間の遊びを啓発してきた。	B	・マッシュカードの取組によって、様々な遊びを通じて体力向上を図り続けてほしい。	・今年度、児童が積極的になってきたので、引き続き行っていく。
実現に向けた教育の推進	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	・特別支援教室の教員と連携し、児童の共通理解を図る。	・年に3回の担任と巡回教員との面談を行う。	A	A	A	・日々の学習や生活指導面で、特別支援教室の教員から困り感のある児童への対応を相談するようにしている。	A	・特別支援教室の教員と連携を図り、児童の困り感に対応してほしい。	A	・年3回だけでなく、普段から巡回指導教員が各学級の様子を見て、児童への対応の共通理解を図っている。	A	・多角的な視点で児童の様子を見て、多くの教員で同じように対応できるように、引き続き行っていく。	・巡回指導教員と担任の連携を図り、児童の困り感を解消していく。
	○エンカレッジルームの活用促進	・教員が協力して、エンカレッジの担当になり、利用しやすい環境にする。	・全教員がエンカレッジの担当となる。	A	A	A	・全職員体制でエンカレッジの担当となり、担任と協力して利用しやすい環境にしている。	A	・担任だけでなく、全職員が協力して児童にとって安心できる場にしてほしい。	A	・エンカレッジを必要としている児童に対し、全職員体制で協力して担当をしている。	A	・エンカレッジで安心して学習したり気持ちを落ち着ける場所があることは児童にとって必要である。取組を続けてほしい。	・引き続き次年度も全職員でエンカレッジを運営していく。
	○副籍交流、交流及び協働学習の実施・充実	・特別支援学校の副籍の児童と交流を行う。	・年1回の副籍交流を行う。	A	A	A	・10月に特別支援学校との副籍交流を行う。	A	・互いの児童にとって有意義な交流となるように期待する。	A	・10月に特別支援学校との副籍交流を行った。	A	・児童にとって有意義な交流である。引き続き行っていく。	・次年度も引き続き特別支援学校と副籍交流を行っていく。
不登校・	○Hyper-QUの活用	・年1回のHyper-QUの実施を行い、学級経営に活用する。	・6月に実施する。	A	A	A	・6月に実施。学級経営に活用していく。	A	・それぞれの児童の特性をよく理解し、困り感等に対応してほしい。	A	・QUによって学級の実態を知り、学級経営に活用することができた。	A	・担任の教員が一人一人の児童のことを知ることは大切である。	・区の新しい取組を行うことで、学級経営に反映させていく。

